

著作権に関する注意

本校の入試問題は著作権の対象となっており、著作権法で保護されています。
「私的使用のための複製」や「引用」など著作権法上認められた場合を除き、無断で複製・転用することはできません。

お断り

本校の入試問題中で引用した文章・文献等について、著作物保護の観点から一部掲載を控えた箇所があります。ご了承ください。

二〇二三年（令和五）年度

東北学院高等学校入学試験問題

〈一般 A日程〉

国語

二〇二三年（令和五）年一月三十一日（火）

九時～九時五〇分（五〇分間）

注意事項

- 一. 受験番号・氏名を解答用紙にはっきり記入しなさい。
- 二. 解答は、すべて解答用紙に記入しなさい。
- 三. 解答用紙だけを提出しなさい。

一

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、一部本文を改めたところがあります。)

著作物保護のため掲載を控えます

著作物保護のため掲載を控えます

著作物保護のため掲載を控えます

(原研哉『日本のデザイン―美意識が作る未来』より)

問一 部①「百出する」、②「不断の」の本文中の意味としてふさわしいものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ①「百出する」
- | | |
|---|---------------|
| ア | たくさん現れる |
| イ | 同じものが繰り返し返される |
| ウ | それぞれが相反する |
| エ | どんどん強まっていく |
- ②「不断の」
- | | |
|---|-----------|
| ア | 欠くことのできない |
| イ | 日常的な |
| ウ | 効果的な |
| エ | 絶え間のない |

問二 本文中の [] には四つの単語が、連続して入ります。 [] に入れるのにふさわしくない単語を、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 繊細 イ 自由 ウ 丁寧 エ 緻密 オ 簡潔

問三 ——— 部(1) 「この感覚」について、ここではどのようなことを感じていますか。解答欄に合うように説明しなさい。

問四 ——— 部(2) 「まさに我が意を得た思いがした」について、ここでいう「我が意」の説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 東京の夜景は、ムンバイや香港の夜景にはかなわない。
イ 世界広しといえども、東京ほど広大な広がりを持つ都市はない。
ウ 東京の夜景が世界一というのは、思い過ごしかもしれない。
エ 世界の夜景を眺め続けている人々の意見を聞くべきである。
オ 今の東京の夜景は、世界で一番美しいかもしれない。

問五 ——— 部(3) 「美意識とはそのような文化のありようではないか」について、これを説明した次の文の [] I [] II [] III を補うのにふさわしい表現を、指定された字数でそれぞれ本文中から抜き出して答えなさい。なお、句読点や記号があればそれも一字とし、以下の問いでも同様とします。

ヨーロッパのように [] I (八字) [] のみに美意識を持ち込むのではなく、日本では [] II (九字) [] にまでそれが持ち込まれ、 [] III (四字) [] で共有されている文化のありよう。

問六 —— 部(4)「今日、僕たちは、自らの文化が世界に貢献できる点を、感覚資源からあらためて見つめ直してみてもどうだろうか」について、本文を読んだ後に生徒たちが感想を話しています。本文の読み取りが明らかに間違った発言をしている生徒を一人選び、答えなさい。

Aさん 「これまで『天然資源』がないのはマイナスとばかり思ってたけど、それにかわる『感覚資源』が日本にはあったんだね。」

Bさん 「しかもそれは、お金で買うことも輸出もできない、なんかすごい価値があるよ。」

Cさん 「だから、その『感覚資源』をうまく使って、『天然資源』を逆に日本に輸入すればいいんだ。」

Dさん 「その日本の『感覚資源』はつつましさや、節度をわきまえる感覚と言いつい換えることもできそうだね。」

Eさん 「うん、これからの世界の環境において日本の『感覚資源』は役に立つ。私たちにもできることがきつとあるよ。」

二 次の文章は、わたしとタンシオ、ギモの三人が、ギモの過去のつらい思い出を克服するために小学校の理科室に忍び込んだ翌日の話です。

これを読んで、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、一部本文を改めたところがあります。)

著作物保護のため掲載を控えます

著作物保護のため掲載を控えます

著作物保護のため掲載を控えます

著作物保護のため掲載を控えます

(天童荒太『包帯クラブ』The Bandage Club)より)

問一 本文中の を補うのにふさわしい語を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ぎくりとして イ がっかりして ウ ぼんやりして エ けろりとして

問二 ———部(1)「だれかに何かで勝ちたくて、バイトを始めたわけじゃないのに……」について、「わたしたち」はなぜバイトを始めたのですか、その理由を説明しなさい。

問三 ———部(2)「ほとんど同時にため息をついた」について、この時の「わたしとタンシオ」の気持ちを六十字以内で説明しなさい。

問四 ———部(3)「ねえ……包帯、巻いてみようか」について、「わたし」はなぜこのような発言をしたのですか。これを説明した次の文の I、II を補うのにふさわしい表現を、指定された字数でそれぞれ本文中から抜き出して答えなさい。

周囲の人から、I (六字)と認めてもらい、自分でもII (十字)と理解することで、心が軽くなることが期待できるから。

問五 本文中の「わたし」と「タンシオ」の人物像としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分たちの現状に自暴自棄になる「わたし」と、その様子を快く思っていない「タンシオ」。
- イ 常に前向きで現状を変えようとする「わたし」と、その考えを必死に支えようとする「タンシオ」。
- ウ 社会に不満を持ちつつもそれを隠そうとする「わたし」と、そもそも不満を持たない静かな性格の「タンシオ」。
- エ 周囲との調和に苦しんでいる「わたし」と、うまく調和しつつわたしの苦しみを和らげようとする「タンシオ」。
- オ 自分たちの気持ちに丁寧に向き合う「わたし」と、そのわたしの気持ちに穏やかに寄り添う「タンシオ」。

三

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、一部本文を改めたところがあります。)

著作物保護のため掲載を控えます

(川村裕子 『平安女子の楽しい!生活』より)

【古文】

著作物保護のため掲載を控えます

(『紫式部日記』より)

問一 —— 部(1)「漢字」に対応する古語を【古文】の中から抜き出して答えなさい。

問二 へ へ に入る表現としてふさわしいものを【古文】を参考にして次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア もし見ることがあれば、まだ書き終えていないものばかりだろう。

イ よく見ると、間違いばかりである。

ウ もし見ることがあれば、間違いばかりだろう。

エ よく見ると、まだ書き終えていないものばかりである。

問三 I、II に入る作品名としてふさわしいものを次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 源氏物語

イ 平家物語

ウ 枕草子

エ 方丈記

オ 徒然草

問四 —— 部(2)「機転のきいたやりとり」について、次に関連する古典作品の現代語訳をあげます。~~~~~部の面白さをわかりやすく説明しなさい。ただし、文章中の「私」は「清少納言」です。

中納言様が中宮のもとに参上なさって、御扇を中宮様に献上なさる時に、

「隆家は、すばらしい扇の骨を手に入れてございます。それに紙を貼らせて中宮様に差し上げようと思うのですが、ありふれた紙は貼ることができそうにないので、よい紙を探しております。」

と申しあげなさる。

中宮様が「その骨とは、どのようなものですか。」

とお尋ね申しあげなされると、

「すべて、すばらしゅうございます。『全くまだ見たことのない骨の様子だ。』と人々が申します。本当にこれほどのすばらしい骨は、見たことがない。」

と声高くおっしゃるので、

私が「それでは、扇の骨ではなくて、海月の骨であるようですね。」と申し上げると、

中納言様は「これは隆家の言ったことにしてしまおう。」

とおっしゃって、お笑いになる。

このような自慢めいたことは、苦々しいことの中にきつと入れてしまふべきであるが、

人々が「一つも書き落としてはいけない。」

と言うので、どうしようか、とも思いましたが、書きました。

四

次の①～⑤の——部のカタカナを漢字に直し、⑥～⑩の——部の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- | | | | |
|---|---|---|---|
| ① | ツタナ <small>い</small> 文章 <small>に</small> な <small>っ</small> て <small>し</small> ま <small>っ</small> た。 | ⑥ | 母 <small>の</small> 深 <small>い</small> 慈 <small>し</small> み。 |
| ② | 事 <small>実</small> がアイマイ <small>に</small> なる。 | ⑦ | 名 <small>利</small> を <small>訪</small> れる。 |
| ③ | 台 <small>風</small> の暴風 <small>ケ</small> ン <small>に</small> 入 <small>る</small> 。 | ⑧ | 話 <small>を</small> 遮 <small>る</small> 。 |
| ④ | 財 <small>界</small> のジュウチ <small>ン</small> 。 | ⑨ | 累 <small>積</small> 赤 <small>字</small> 。 |
| ⑤ | ヒ <small>ト</small> ミ <small>を</small> 輝 <small>か</small> せ <small>て</small> 話 <small>を</small> 聞 <small>く</small> 。 | ⑩ | 聴 <small>衆</small> の喝 <small>采</small> を浴 <small>び</small> る。 |

